

# 介護DXに関するアンケート調査結果について

松山市役所 保健福祉部 介護保険課

**【アンケートの目的】**

介護業務の負担軽減や効率化に繋がる取り組みとして介護業務のDX化の推進について今後の参考とするため、機器の利用状況やニーズなどを把握することを目的としたものです。

**【方法】**

アンケートはWEBまたは2次元コードにより回答。

**【対象】**

松山市内及び近隣の市町にある介護関係事業所約1207事業所(メールにて依頼)

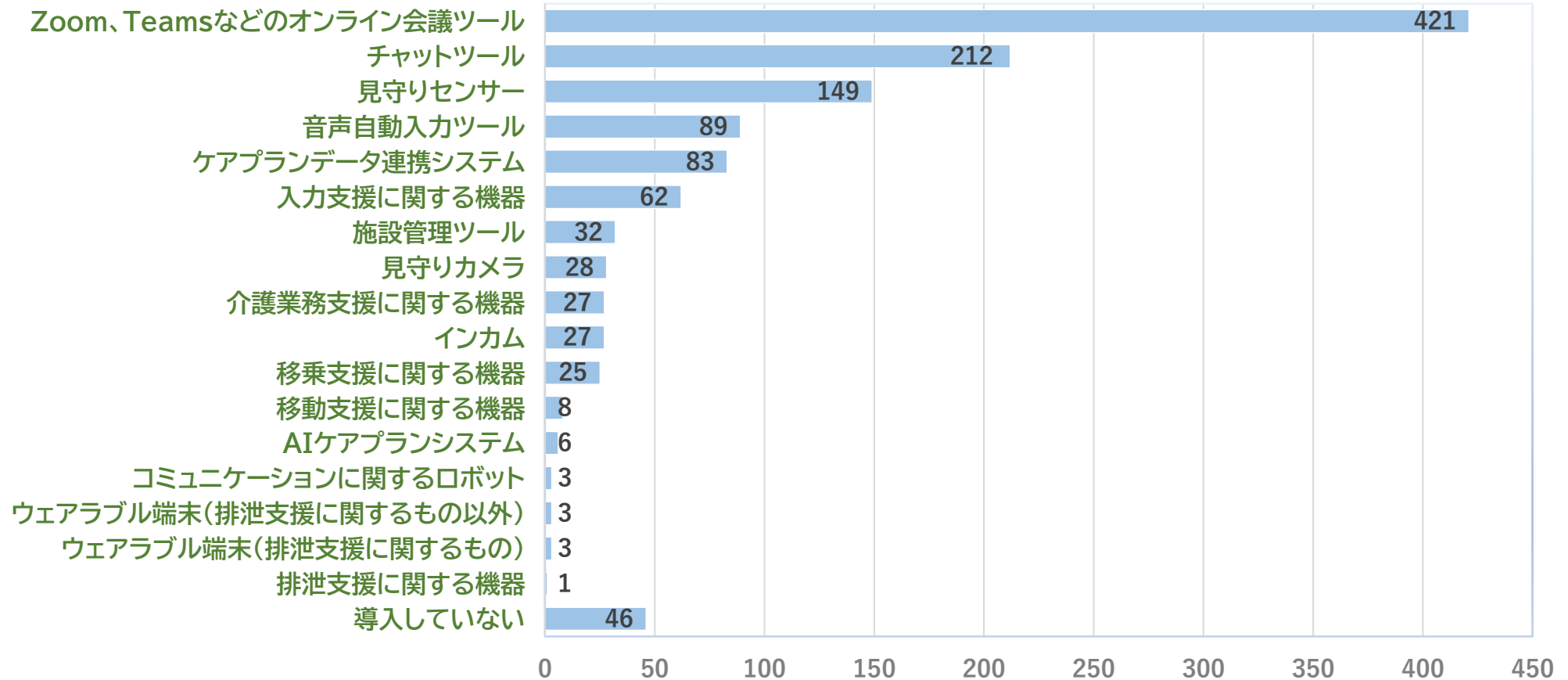
**【調査期間】**

令和5年8月22日～令和5年9月1日

**【回答事業所数】**

533事業所

# 1. 介護DXで現在導入しているもの(複数回答有)

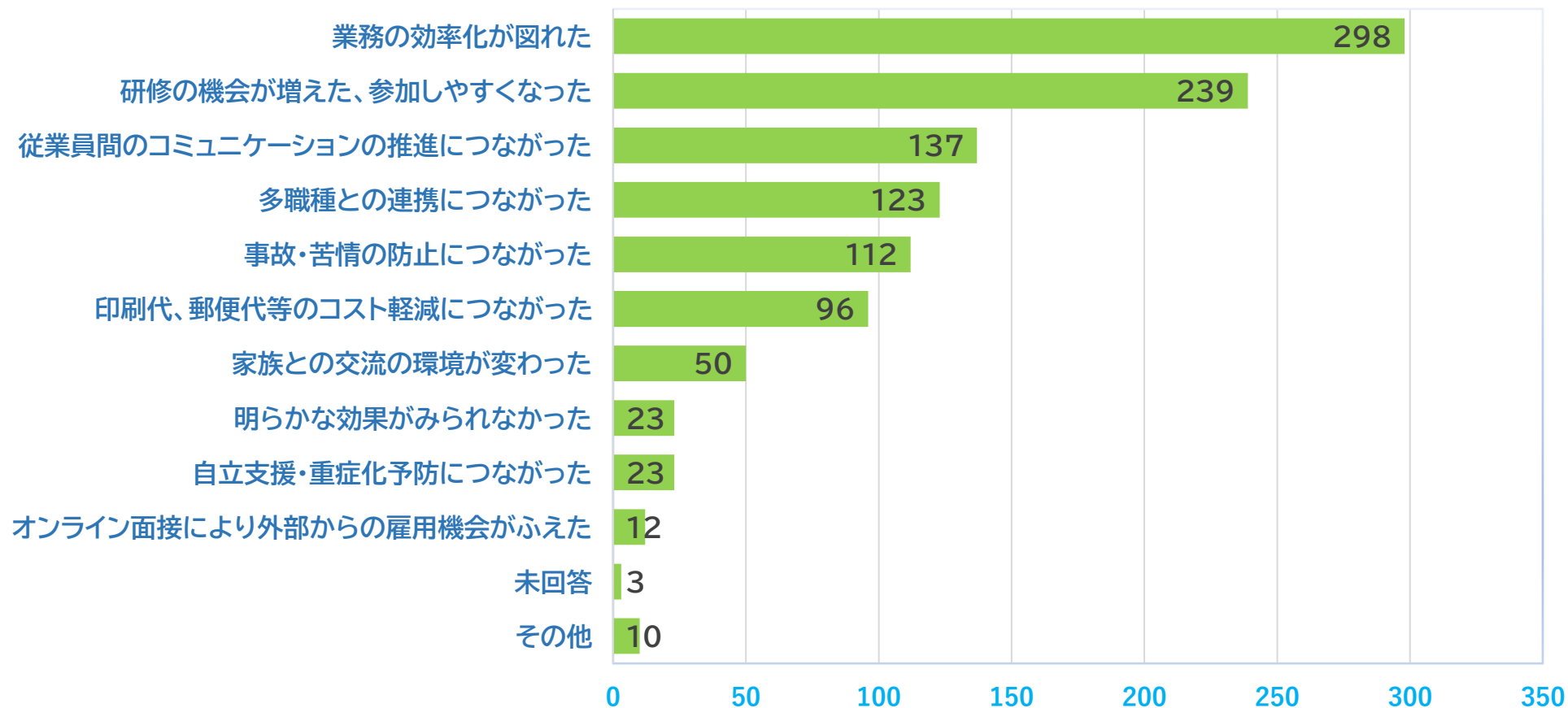


最も導入が多いものは、「ZoomやTeamsなどのオンライン会議ツール」、次に「チャットツール」です。

パソコンやスマートフォンから簡単に使用できる点と、新型コロナウイルスの感染拡大により、在宅勤務や非対面での会議で使用した経験がある人が多い点などが要因と考えられます。

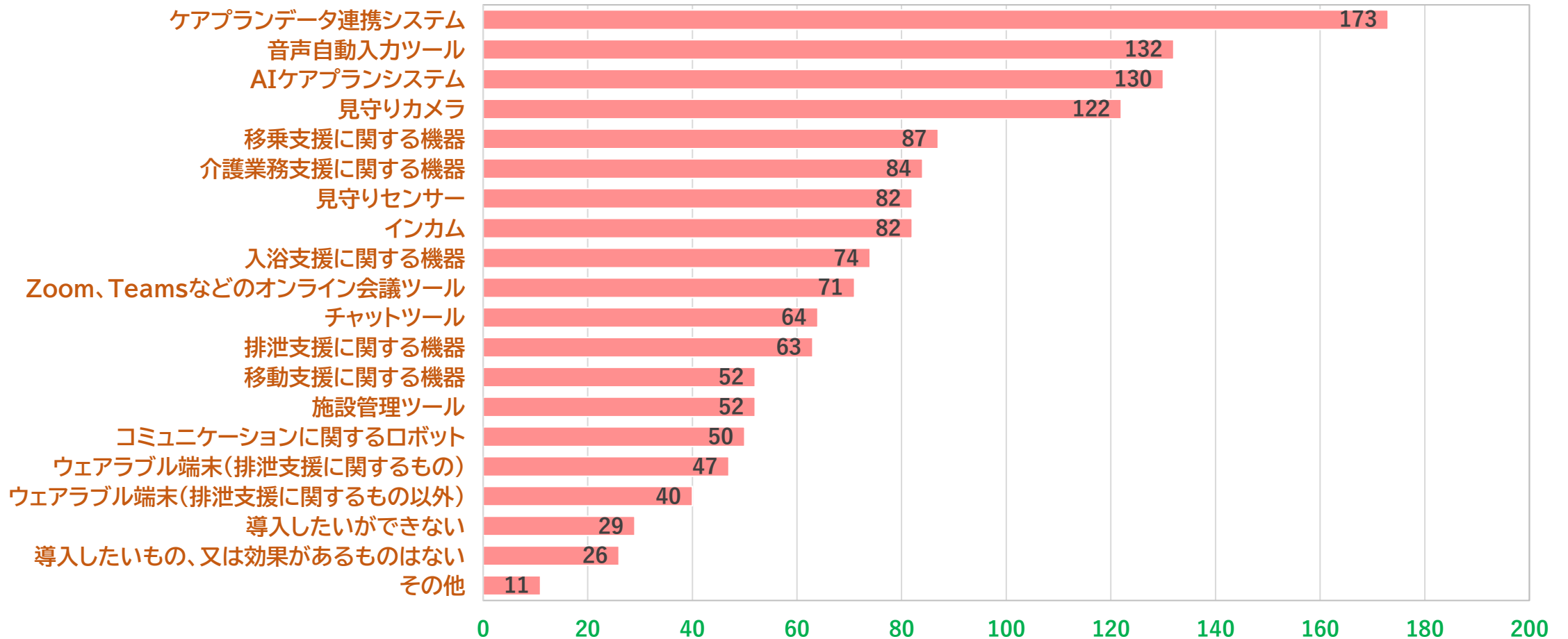
3番目に多いのが、施設で利用する「見守りセンサー」で、施設利用者の転倒防止などに活用されていると考えられます。

## 2. 介護DXを導入した効果(複数回答有)



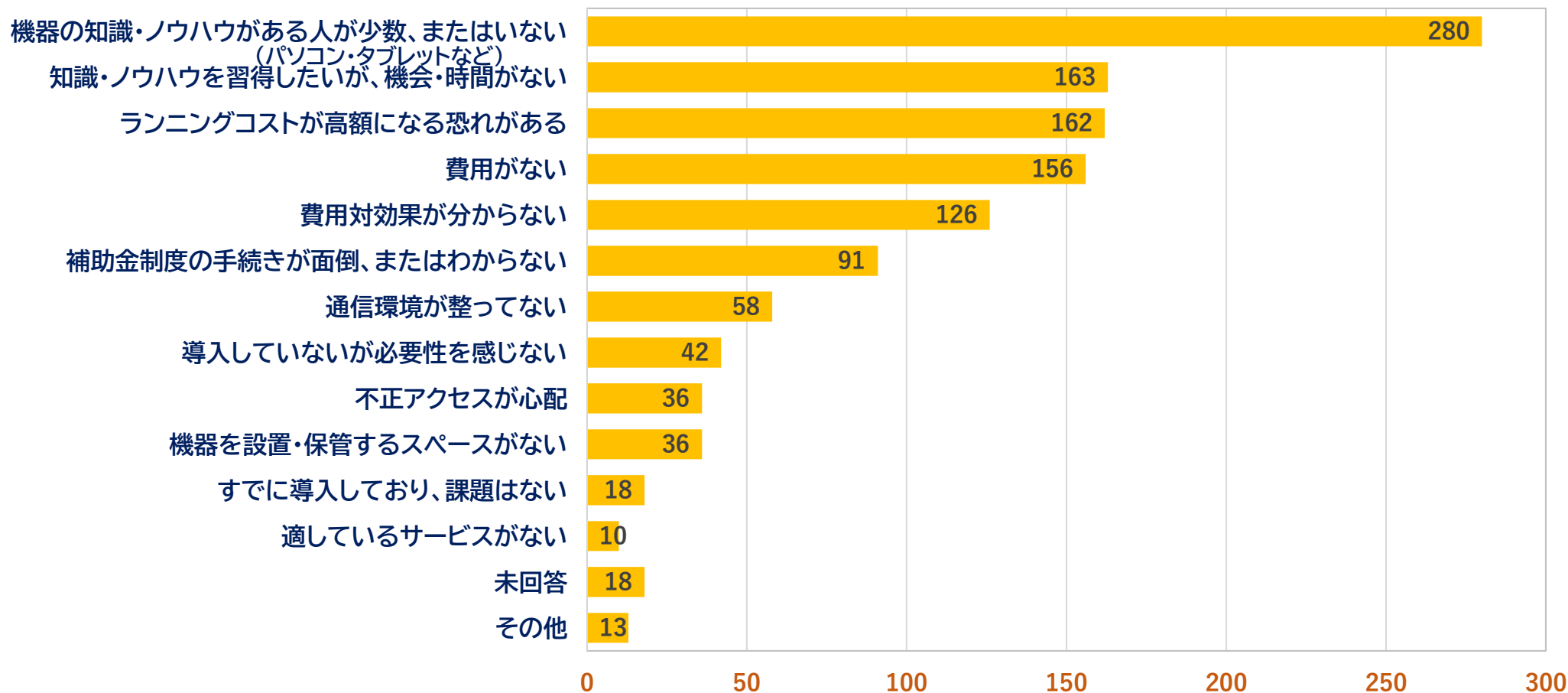
導入した効果で最も多い回答は、「業務の効率化が図れた」、次に「研修の機会が増えた・参加しやすくなった」です。  
オンラインの会議や研修が定着し、移動時間や準備の縮減した事が要因と考えられます。  
以降の回答からは、従業員のコミュニケーションの推進、職場環境の改善や多職種との連携、また施設では見守りセンサーや見守りカメラの導入により転倒事故の発生抑止に繋がっていると考えられます。

### 3. 今後導入したい又は導入したら効果があると考えられるもの(複数回答有)



今後導入したら効果があると考えられているものは「ケアプランデータ連携システム」「音声自動入力ツール」「AIケアプランシステム」の順で多く、以降は「見守りカメラ」「移乗支援に関する機器」「介護業務支援に関する機器」「見守りセンサー」と続きます。

## 4. 介護DXを導入するうえで課題と感ずること(複数回答有)



導入するうえで課題と感ずていることで最も多いのは「機器の知識・ノウハウがある人が少ない、またはいない」次に「知識・ノウハウを習得したいが、機会・時間がない」であり、現状では導入しても機器の知識・ノウハウを習得する事は困難で、デジタル機器を使用せず処理した方が早いと考える人が多いと推察される事から、デジタル機器の専門的な知識を持った人材が必要であると考えられます。

また「ランニングコストが高額である」「費用がない」「費用対効果がわからない」など、費用面を課題と感ず、導入に踏み切れない事業所も多いと考えられます。